

# 「柏崎の橋」

## 4 登城橋・駒返し橋

北条は西国毛利発祥の地としても知られ、その歴史は古い。毎年9月には400年以上の歴史があるといわれる十五夜祭りが、今も情緒豊かに繰り広げられている。毛利家にまつわる伝説も多く、神社や地名の由来をみることができる。現在の信越線北条駅から程近い鹿島地区には北条城主の城館があったといわれ、一帯には道場町、屋敷田などの地名も残る。

この城館から山上の北条城や城主菩提寺の専称寺などへ向かう際、天然の外堀である長鳥川を越えなければならない。『城館東の武家地と西の寺地（荒町）を結んでいる長鳥川に架かる橋は登城橋（外城橋）と呼ばれている』（越後北条毛利氏山城と隆盛のあと）とあるように、城主は平時はこの鹿島の館で暮らし、一朝ことあらば山上の北条城へ駆け上ったのであろう。地域の皆さんの整備により、普広寺、専称寺から城への道、本丸・二の丸跡、空堀などの遺構が今も残る。

登城橋は平成19年12月に現在の橋に架け替えられるまでは、往時の雰囲気伝える木橋であった。しかし集落間の往来に不便であることから、現在の車も通れる橋に架け替えられた。



現在の登城橋。背景は北条城址のある城山

国道291号を北条駅西の北条踏切に曲がり、踏切を過ぎて左手の小川が太田川であり、この川に架かっているのが「駒返し橋」である。

その昔、縁戚関係にありながら北条城主に謀殺された主君の急を知り、駆けつけた善根城の家来が、落とされた橋を見て引き返したことがその名の由来とされる（柏崎市伝説集）。



「史跡と伝説 北条のはなし」では、謀殺された善根城主の奥方は北条城主の娘であったため、実父を討つわけにはいかず、劣勢でもあるため引き返した、としている。また、反撃にあった善根城の十三名が八石山中に逃げ込み、追い落とされたのが赤尾川源流の十三が滝とも伝わる（ソフィアだより146号）。

「駒返し橋」の現況はコンクリートの橋になっており、「ふるさと北条ものがたり」には「駒橋」として上の写真を載せている。小さいながら歴史と伝説が秘められた橋である。

### ●参考にした本

「北条町史」北条町史編纂委員会 編（224 ㍻）

「柏崎市伝説集」柏崎市教育委員会 編（388 K ㍻）

「史蹟と伝説 北条のはなし」桑山省吾 著（224 ㍻）

「越後北条毛利氏山城と隆盛のあと」北条地区コミュニティ振興協議会 発行（224 K ㍻）

「ふるさと北条ものがたり」北条南小学校 編（224 K ㍻）